

『ソク・サバーイ！ カンボジア・サッカー見聞録～牛の向
こうに未来が見える～』 Vol. 4

● J F Aサッカー 1級審判インストラクター 唐木田 徹



旧友、ザイナール氏との12年ぶりの再会

このところ、夜中に雷の轟音とともに強い雨が降ることが多くなりました。雷が連発するのも半端ではありませんが、雨も台風並みの強さです。でも1時間ほどで止んでしまいます。翌日は何事もなかったように、いつもの太陽が出てきます。しかし、ところどころに水たまり、というより水があふれているところを見ると、やっぱり昨夜の雨は“すごかったのだなあ！”と分かります。



SUZUKIカップ開幕戦、フィリピン対東ティモール

「AFF・SUZUKI CUP 2008」予選が10月17日から9日間、プノンペンで行われました。AFFはアセアンフットボール連盟で、12カ国が加盟しています。今回の予選はカンボジア、フィリピン、ラオス、ブルネイ、東ティモールの5カ国が参加し、リーグ戦上位2カ国が12月の本大会へ出場できます。試合は東ティモールを除く四つ巴になり、先に全試合を終えたフィリピンが勝ち点7の暫定首位、最終戦のカンボジア―ブルネイがともに4、ラオスが6で、フィリピンはラオスが負けるかカンボジア―ブルネイが引き分けで出場権獲得、ラオスは引き分け以上、カンボジア・

ブルネイは勝った方という具合です。結果はカンボジアが逆転勝ちで大盛り上がり、ラオスが順当に勝って、この2カ国が本大会への切符を勝ち取りました。

内容はラオスとブルネイに見るべきものがありました。どちらも大柄な選手がほとんどいないながら、全員がよく動き連動しながらシンプルに攻めるという共通点がありました。ラオスの方が集中力で勝っており、この2チームの対戦もロスタイム残り15秒でラオスが勝ち越すスリリングな試合でした。



アセッサーと審判団

審判は主審・副審各5名が指名されました。シンガポール・マレーシア・インドネシアが2名セット、ベトナムの主審、ミャンマー

の副審で、やはり時節柄、タイからは審判は派遣されませんでした（国境付近で衝突が続いているので）。それとなぜかカンボジアのセットです??これは明らかに割り当てミスでしょう。当該国の審判が、しかも1カ国だけ入っているのはどう考えても不自然です。平均すれば主審2試合、4 t h 2試合、副審は4試合担当するところを案の定、後半の試合で順位が複雑に絡むため、カンボジアは主審1、4 t h 2、副審2しか割り当てられませんでした。マレーシアからきたアセッサーも、これには困っていました。



審判団のトレーニング風景

ところでこのアセッサー、ザイナール・アビディン・ヤコブ氏は、何と私が1996年にナイキプレミアカップの帯同審判でマレーシ

アへ行ったときに、一緒に審判をした人でした。その後、国際主審になりましたが、足を痛めたことが原因で2000年を最後に現役を引退して、今に至っているそうです。私は国際審判ではなかったので、海外での審判活動はこの時と昨年 of 中国の2回だけなのですが、12年ぶりに旧知の人に会えて、サッカーについて審判指導について語り合えるとは思っていませんでした。これもサッカーにかかわり続けてきたおかげですね。



ミーティング風景

※『ソク・サバーイ』とは、クメール語で「元気です」「元気ですか？」（正式にはソク・サバーイ・テー？）の意。